

日本産コガネムシ研究史 (5)

高橋 寿 郎

1918, Ohaus, F.; *W. Junk Coleopterorum Catalogus* pars. 66, Scarabaeidae, Euchirinae, Paenomerinae, Rutelini, pp. 1~241

本書はスジコガネ亜科を主体として収録され、日本産は30種記録されている。

1921; S. Schenkling; *W. Junk Coleopterorum Catalogus* pars. 72, Scarabaeidae, Cetoninae, pp. 1~430.

本種にはハナムグリ亜科のものが記録されており、日本産として17種含まれている。属名の変更以外にシノニムとして整理されるのが5種ある。

1921; Schmidt, Ad.; *Beitrag zur Kenntnis der Gattungen Canthon Hfsg., Sybax Boh., Aphodius Ill., Simogonius Har., Ataenius Har.*

Archiv. Naturg. LXXXVI, A, 9: 114~148.

世界各地からの糞虫類、10種の *Canthon* 属の種の解説と13新変種の記載及び9新種の記載、*Sybax* 属の1新種、*Aphodius* 属7新種の記載、*Simogonius* 属1新種、*Ataenius* 属3新種及び1既知種の記載を含む論文である。

p. 140~142 に *Aphodius* (*Trichaphodius*) *comatus* なる新種が Seich (Korea), Tsushima (Japan) から記載されている。

1922; Schmidt, Ad.; *Aphodiinae. Das Tierreich, 45.*

Lieferung. Berlin und Leipzig.

pp. 1—XXXVI u. 1—614.

本書は後藤光男氏の御好意で同氏御所有のものを拝見させて頂いたもので始めに後藤氏の御好意に厚く御礼申上げる。

Das Tierreich と題するシリーズの中の1冊でどのようなものが他にしているかわからなかったが、本書はその45分冊として世界の *Aphodiinae* の分類書で pp. 1—XXXVI u. 1—614 の大冊である。その内容は *Literatur—Kurzungen, VI—XVI, Systematischer Index. XVII—XXXVI, Aphodiinae, 1—550, 34 Figs.* 始めに *Subfam. Aphodiinae Arrow* の一般体制の解説があり、*Tribus* の検索に始まり *Gennus* の検索、亜属の検索、種の検索があり、亜属毎に種の記載がある。Alphabetische Register, 551~606 *Nomenclator generum et subgenerum, 607~614* となっている。収録されているのは5族, 43属, 72亜属, 1,149種が記載されている。日本産

として32種が記載されているが、日本産での新種記載はない。現在の知見では学名の変るものがある。p. 303, 575 で Waterhouse の *A. obsoletus* に対し本書で新に *A. (Bodilus) languidulus* なる名を与えている。

1922; S. Schenkling; *W. Junk Coleopterorum Catalogus* pars. 75, Scarabaeidae, Trichiinae, Valginae, pp. 1~58.

本書はトラハナムグリ、ヒラタハナムグリ両亜科のものをふくんだ世界産の目録であり、日本産としては10種が取扱われている。属名の変更、種名の変更、亜種の実扱にすべきもの等々があり、現在の日本には産しないと思われる種が1種ふくまれている。

1923; 新島善直, 木下栄次郎; こがねむしに関する研究報告 (第二), 我国に産するこがねむし及其分布

北海道帝国大学農学部演習林研究報告, 第二巻, 第二号, pp. 1~253, pl. 1~7.

1927; 新島善直, 木下栄次郎; 同上表題 (第三) (追加及訂正)

同上第四巻, pp. 1~97, pl. 1~3.

この時代迄松村博士の研究を除いては日本のコガネムシの研究は主として欧米人によってなされてきた。それが日本人によって日本のコガネムシの総合的研究として始めて発表されたのがこの報文である。この報文は著者が“こがねむしの被害及び駆除に関する研究報告 (第一)”を1917年に発表その続編として日本に産するこがねむしの種類を分類し各個の昆虫学上の性質を記載し、更に識別点を明かにして主として林業家の実用に供せしめ且つ各種の分布区域を確かめんことを期したと冒頭に書いてその目的を明示しておられる。

当時の日本のことであるから朝鮮、台湾産もふくまれ多くの新種の記載と図説がある。その当時迄に日本産として知られた種で標本を検せられたものは全部記載があり、標本のないものは種名のみ記しておられる。現在の知見からすれば同定の間違っている種もあり、新種として記載されたものもシノニムとして姿を消さねばならぬものもあるが、日本の当時のコガネムシの同定には非常に役立つ貴重な文献である。第三は第二の追加及訂正とあるが、一緒にふくめて眺めた方が良いと思う。各種についての当否の検討は長くなるので省略するが、本報文で新種として発表された種は全部 (但し日本産のみ)

を次に挙げ現在の取扱を記しておく。ただしコガネムシ
といっても之等論文は食葉類に就いてのみの意味で広い
意味のコガネムシではない。

(II)

p. 17, *Serica karafutoensis*, Taf. III, fig. 5. 樺太から
の新種記載であるが千島, 北海道に産し, 本州産は
subsp. *honshuensis* Nomura と取扱われる。p. 32,
Sericania hidana, Taf. II, fig. 9, 9a (Hida). p. 34,
S. shinanoensis, Taf. II, f. 7 (Shinano, Fukuoka=
S. angulata (Lewis)). p. 62, *Melolontha japonica*
Burm. var. *Gotenbaensis*, 現在変種として取扱って
いない。*M. satsumaensis*, Taf. II, f. 5, Taf. IV, f. 19,
Taf. VII, f. 13 (鹿児島, 宮崎, 高知)。p. 105, *Anomala*
tokioensis, Taf. I, f. 8, Taf. VII, f. 11 (Tokyo)=*A.*
lucens Ballion. p. 126 *Phyllopertha kiotoensis*, Taf.
VI, f. 17=*P. diversa* (Waterh.). p. 128, *P. tanbaensis*,
Taf. VI, f. 21 (Tanba, Kochi)=*Blitopertha orientalis*
(Waterh.). p. 129, *P. fuscata*, Taf., VI f. 22 (Hokkaido)
=*P. intermixta* (Arrow). p. 139, *Popillia comma*,
Taf. I, f. 9, 台湾産での新種記載であるが, 現在宮古島
に分布が知られている。p. 170, *Liocola miyakoensis*,
Taf. II, f. 6, Taf. V, f. 14, Taf. VII, f. 17 (宮古島, 土
佐)=*Protaetia*. p. 174, *Potosia nitidiscutellata*, Taf.
V, f. 2, Taf. VII, f. 18 (Kyoto) = *Protaetia lenzi*
(Harold). p. 190, *Gnorimus Otsukae*, Taf. VI, f. 4 (高
知, 信濃, 大台ヶ原) = *Paratrichioides doenitzi* Harold.

(III)

p. 12, *Autoserica Uyei*, Taf. 1, f. 8, Taf. III, f. 3
(大分)=*Maladera secreta* (Brenske) p. 14, *Sericania*
fulgida, Taf. 1, f. 59, Taf. III, f. 4 (中禅寺) = *S.*
fuscilineata fulgida. p. 15, *Sericania Galloisi*, Taf. I,
f. 58, Taf. III, f. 5 (中禅寺). p. 23, *Brahmina ishigaki-*
ensis, Taf. I, f. 18, Taf. III, f. 7 (石垣島)=*Dasylepida*.
1925, Ohaus. F.; *I Nachtrag zur Rutelinenfauna*
Formosa (Col. Lamell.)

Archiv. f. Naturg. XCI, A. Heft. 5, pp. 122—131.

第三報に1951年として解説したが1925年の誤り。

1926, Goidanich, A.; *Observazioni sopra il genere*
Onthophagus Latr.

Bul. Soc. Adr. Nat., XXIX.

p. 138 に *Onthophagus viduus* Harold が奄美大島
に産することの記録あり。

1927, A. Boucomont et J.J.E. Gillet; *W. Junk Coeopt-*
erorum Catalogus, Pars. 90, Scarabaeidae, Coprinae,
II, Termitogrinae, pp. 103—263.

本書に記録された日本産は13種である。

1927; Y. Miwa; *A List of Japanese Lucanidae, with*
the description of one new species

Ins. Mats., II(1): 25—31.

その当時の日本産(台湾, 朝鮮をふくむ)クワガタム
シは36種が知られており, この報文で13種(内1種は本
論文で新種として発表)を追加, 日本産クワガタムシ科
49種の目録並びに分布表をつけられた。個々の種に就い
ては現在相当訂正をしないでならないが, 純然たる現
在の日本産のみでないのでその検討は省略したい。ただ
この論文で新種と記載された *Eurytrachelus yezoensis*
Miwa がその後著者自身によって *Dorcus hopei* の
local race であると訂正されている(1931)。

1927; G. J. Arrow; *A Note on the Coleopterous*
Genus Aserica (Melolonthinae)

Proc. Ent. Soc. Wash., 29(3): 69—70.

アカピロウドコガネ 属の属名を *Autoserica* でなく
Aserica を用うべきものであるという報文であるが, 現
在では *Maladera* 属の *Aserica* 亜属として取扱われて
いる。

1928; Didier, R.: *Etudes sur les Coleopteres Lucanides*
du Globe, Face 2.

表題のごとく全世界のクワガタムシ科の研究である。
p. 55 に奄美大島産新亜種 *Aegus laevicolis taurulus* の
記載あり。

1929; Y. Miwa: *An Addition to the List of Lucanid-*
species from the Japanese Empire

Ins. Mats., III(3/4): 72—76.

1927年の著者のクワガタムシ科の目録に洩れた種並び
に未記録種を記録すると共に2新種の記載をされた。当
時の日本であるから台湾, 朝鮮がふくまれている。新種
は次の2種。p. 73—74, f. 1, *Neolucanus insularis*, 石
垣島産, 1♂. p. 74—75, f. 2, *Leptinopterus formosanus*
=*Macrodercus Formosa*. (1—IV—1973)